

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2473100143
法人名	社会福祉法人 エイジハウス
事業所名	グループホーム ひぐらし
所在地	南牟婁郡御浜町大字神木23
自己評価作成日	評価結果市町提出日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2473100143-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27 年 8 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人に応じた関わりを多く持ち、本人の希望に応じ外出にも力を入れている。入浴は夕方から夜にかけて入浴して頂き、希望に応じて毎日入浴して頂いている方もいる。又、季節に応じて梅干し作りや、味噌作り等昔ながらの知恵を利用者から教わる事を多く関わりに持ち、利用者の生きがいに繋がる。今年度、農園を整備拡大し、野菜作りにも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの意向を大切に、その意向に添ったきめ細かな支援をしている事業所である。利用者と一緒に梅干し作りや味噌作り、近くに農園を整備して野菜作りにも力を入れ、利用者の有する力を活かしながら、ハリのある生活をして頂く支援に取り組んでいる。外出支援では、日常的な散歩や四季折々の遠足等だけでなく、一人ひとりの希望に応じ、温泉やカラオケスタジオ、囲碁、外食等の個別外出支援も丁寧に行っている。又、食事を楽しむため、野外での流しソーメン・バーベキュー等、多彩な支援に取り組んでいる。毎年、法人全体で夏祭りを盛大に行い、多くの地域の人達に参加して貰っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りの際に理念に触れ、確認し合う様にしている。又、ケース検討会や、各会議の際にも理念に触れ暗記もし、共有している。	事務所に理念を掲示すると共に、毎朝の申し送りや各会議の際等でも確認し合いながら、実践の中でも常に理念に立ち返るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントの際には、利用者とお出掛け、地域の方からお誘いの声も掛けて頂いている。	地域の祭りや盆踊り等の行事に参加している。法人が社会貢献事業として取り組んでいる、地域の高齢者等を対象とした「買物ツアー」等に利用者も参加し交流を深めている。法人主催の夏祭りには、地域の沢山の住民が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌により、各事業所の日々の関わりや取り組みを紹介し、地域に配布したり、お店にも置かせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し、包括支援センター、地元の警察、老人クラブ代表、民生委員の方などに参加して頂き、又、利用者にも出席して頂き、利用者の意見もサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。地域包括支援センターや地元の民生委員、警察、老人クラブ代表、利用者等が参加し活発な意見交換をしている。外部の人から見た意見は貴重で、運営に有効に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議に、包括支援センターの職員に出席して頂いており、ケアサービスの取り組み等も議題に上げ協力関係を密にしている。	地域包括支援センターの職員に運営推進会議へ参加して貰い、町担当職員とも日常的な連携を深めるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や、居室の鍵も含め、身体拘束は一切行っていない。又、言葉による拘束にも十分注意し、毎日の申し送り、ケース検討会の際にも話し合い周知徹底している。	玄関、居室の施錠はしていない。言葉の拘束にも十分な注意を払い、ケアの中で問題と思われる対応があれば、その都度職員間で話し合っている。毎年、職員研修も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内でも常に虐待が見過ごされる事がない様に十分注意をしている。又、法人内でも施設内研修会を行っており、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の研修会により学ぶ機会を持っている。又、地域福祉権利擁護のパンフレットを事務所に設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用時の契約書に基づいて説明し、了解して頂いた時点で署名捺印を頂いている。又、契約書の中で苦情窓口、第三者委員の説明も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議に、家族、利用者も参加して頂き、意見等を運営に反映させている。	運営推進会議へ利用者、家族の代表に参加してもらっている。又、面会時を大切に、運営に関する意見も聞かせてもらうようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケース検討会や、毎月のリーダー会議にて職員の意見、提案等も聞き、定期的にユニット間の意見交換会も設けている。	毎月のケース検討会で運営に関する話し合いも行なっている。又、全職員を対象としたアンケート等も実施し、職員が主体的に運営に参画できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度、職員の更衣室を整備し、職員が働きやすい環境を整備した。又、法人内で全職員に希望調書を取り、意見、提案、要望等を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修会にも積極的に参加し、又、人事考課制度にて、個人の目標をたてチャレンジカードを作成している。職員の資格取得にも繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会への参加や、全国グループホーム大会での発表等、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、雰囲気になじんで頂ける様、他の利用者に紹介し、職員が会話の間に入っている。又、家族からも在宅での情報を聞き、役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時より家族が抱えている不安にも耳を傾け、家族にも安心して頂ける様、報告等こまめに行いできる限り要望に添える様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、サービス提供にあたり、本人の要望・家族の要望等を聞き、利用者・家族の不安も解消できる様、サービスの提供、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩である事を職員全員が共有している。利用者に教えてもらう場面も多く、シェアハウスの様に、職員、利用者が共に支え合い、生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、担当職員が家族に手紙を書き、近況報告を行い、本人と家族の絆も大切にしている。又、家族の要望にもできる限り添える様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が入居前より利用していた馴染みの美容室や、散髪屋に出掛け、希望に応じてお墓参りにも出掛けて頂いている。又、誕生日には希望をお聞きし、行きたい場所に出掛ける様支援している。	自宅や墓参り、馴染みの美容院や散髪屋に出掛けたりしている。又、かつて行った馴染みの観光地等にも出掛けたり、利用者の希望にきめ細かく対応するようにしている。利用者の知人もよく訪ねてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介助の必要な利用者には、他の利用者が関わり利用者同士が悩みを相談し合ったり、支え合いながら生活できる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期間の入院を要する方には家族が不安にならない様併設している特養とも連携を取り経過をフォローし、本人・家族の相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を第一に、又、家族の希望も含め生活して頂いている。又、担当職員が誕生日やいつものお手伝いのお礼も兼ねて行きたい場所等をお聞きし、外出支援に繋げている。	アセスメントをしっかり行い、本人・家族の思いや意向を把握するようにしている。一人ひとりへの声かけを大切に、本人の言葉や一寸した仕草からも思いを感じ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の日常の会話や、家族、知人等の面会時に職員が今までの生活の様子を聞いたり、その際に本人の今の生活等も報告している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムで生活して頂き、残存能力を大切に、その人に応じた社会的役割をして頂ける様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース検討会により、本人、家族の意見を主に考え、その中でサービスを組み、作成し、担当職員も含めモニタリングを行い、定期的に見直している。	本人・家族との話し合いを行ない、それを元に介護計画を作成し、ケース検討会で話し合っている。3ヶ月毎に見直しを行うと共に、状態変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の身体状況、排便等を個別にファイルし毎日記録している。又、ケース検討会において介護計画の見直し、情報の共有に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援に職員が柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議にて利用者の状況・活動を報告して利用者が安心して地域での暮らしを続けられる様地域の方と連携を取っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族の希望を聞き、かかりつけ医を決めている。受診は職員が付き添い、必要に応じて家族の協力も得ている。又、かかりつけ医と事業所との関係も築く様にしている。	本人・家族の希望の掛かりつけ医への受診支援を、職員が付き添って行っている。受診結果は、家族に随時報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間で情報を共有し、変調があれば併設している特別養護老人ホームの看護師に相談し、支援してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、本人、家族の不安を軽減できる様職員は頻りに病院へ足を運んでいる。又、家族とも情報交換しながら回復状況等速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族と話し合い、安心して支援を受けられる様、看護師が配属されている併設の特養への移動を提案している。その際、特養との連携体制もとっている。	重度化した場合の支援について、入居時点から本人・家族と話し合っている。現在の事業所の方針としては、重度化した場合は、併設の特別養護老人ホームへの移動を提案することになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習に全職員が参加できるように努め、利用者の急変や事故発生時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している特養との合同避難訓練を年4回行い、地域の主催する防災訓練にも参加し、地域との協力関係も築いている。	消防署の指導も受けながら、年4回の防災訓練を行なっている。地震、火災、救急救命や夜間想定訓練を行なっている。	いざと言う時、慌てず確実に避難誘導ができるよう備えていくため、夜間想定訓練や地域の人の協力体制等がより充実したものになるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の尊厳を大切に職員が関わり、言葉掛けについては法人全体で赤ちゃん言葉や命令言葉を使わないようにしている。	一人一人の尊厳を損なわないため、特に言葉掛けに注意を払っている。各居室の入り口に暖簾を下げる等、プライバシーの確保にも配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日職員が声を掛ける中で利用者がどこに出掛けたいか、何がしたいのか、どんな思いでいるのか傾聴し、その中で自己決定できる様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝ゆっくり起きられる方にはゆっくり起きて頂く等、生活リズムを大切にしながら一人一人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する時は化粧をして頂いたり、本人自らが身だしなみを整えて頂ける様準備をしたり、職員がさりげなく支援をする様にしている。又、馴染みの美容室や散髪屋に出掛け、希望に添ったカットをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から、配膳、盛り付け、後片付けを職員と一緒に頂いている。職員は昔ながらの知恵を利用者から教わる事も多い。	配膳、盛り付け、後片付け等を利用者と一緒に行っている。野外で流しソーメンやバーベキューを楽しんだり、又、一人一人希望に添って、ラーメン等を食べに行ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量や、水分量を毎日記録し、食欲がない方には、本人が好む食べ物で捕食して頂いたり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、一人一人の口腔ケアのし方も考え、一人一人に応じた口腔ケアの手伝いをしている。又、就寝前は義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	さりげなく声掛けする事で自尊心を傷つけない様配慮している。一人一人の排泄パターンを探り、快適に過ごして頂ける様オムツ、紙パンツは使用せず布パンツで過ごして頂きトイレで排泄できる様に支援している。	一人一人の排泄パターンをしっかり把握し、トイレでの排泄誘導を行っている。入居時にオムツ使用だったが、入居後、布パンツに改善した利用者も多い。現在は、全利用者が布パンツで過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人水分量の把握や、食材の工夫、乳製品を取り入れており、散歩等体を動かす機会を適度に設け、自然排便できる様に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方には、言葉掛けや対応を工夫し一人一人に合わせた入浴支援を行っている。毎日入浴したい方や、就寝前に入浴したい方にも、本人が望む入浴をして頂き、菖蒲湯、ゆず湯、又温泉にも出掛けている。	全利用者が、最低週2回は入浴している。入浴を拒む利用者には、脱衣場でその人の好きな歌手の歌を流したり、好きなスターのポスターを貼ったり等の対応をしながら、その人に合わせた入浴支援を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を活発にし、生活リズムを整える様に努めている。又、一人一人の体調や表情を見て、ゆったり安眠できる様必要に応じ灯りを調整したり、物音に気を配る配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を一人一人ファイルし、職員が内容を把握できる様にしている。服薬時は本人に手渡し、利用者に応じて服薬方法を考えきちんと服薬できているかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を発揮してもらえる様、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉やお礼を兼ねての温泉へもお誘いしている。又、職員が利用者に家事、農業等を教わる場面も多く、生活の張り合いにも繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物、散歩、温泉や外食等その日行きたい場所や、自宅の様子を伺いに行かれる利用者もみられる。又、畑を整備し、野菜作りにも利用者と励んでいる。	日常的な買物や散歩、一人ひとりの希望に応じた温泉やカラオケ、外食等一人ひとりの意向を尊重した外出支援を行っている。四季折々に弁当を持って遠足にも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力も得て、お金を管理している方もいる。外出時のお金は自分で支払って頂ける様にお金を事前に渡す等の工夫をしている。又、特養の売店での買い物も自分で支払って頂ける様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の事を心配される利用者には、家族の協力のもと、利用者本人に手紙を書いて頂き、職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけや家具は季節に応じた飾りつけ、配置に心掛けている。又、季節を感じて頂ける様梅ジュースや、梅干し漬けもフロアに置き生活感を出せる様にしている。	清潔で落ち着いたある居間(食堂)である。壁には、利用者と職員と一緒に作った、花火の貼り絵や事業所の行事での利用者や職員の写真等が飾られている。利用者達が農園で作ったカボチャ等の野菜も置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれの居室で気の合う仲間とくつろいだり、独りになりたい時は居室でテレビを観たり、縫い物をしたり休息を取れる様それぞれが思う様に過ごして頂ける様配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子、その他使い慣れた日用品を居室に置き、畳の生活に慣れている方には畳部屋を用意し、安心して過ごして頂ける工夫をしている。	居室には、筆筒や椅子をはじめ、位牌やピアノ、パチンコ台等それぞれの好みのものが置かれている。畳の部屋もあり、一人一人の生活感覚に合った部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の能力に応じて出来る事を職員が理解し、毎日の生活の中で援助している。利用者の状態に適した居住環境を整え、安全を確保し、残存能力を活かす様にしている。		